

(様式6)

平成28年度「課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における  
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（高等学校）」  
委託業務報告書【推進地域】

番号	15	都道府県市名	新潟県
----	----	--------	-----

### 1 推進地域における学力に関する現状

本県では、年1回9月に「生徒の実態に関する調査」を実施している。今年度の調査結果によると、「学校の授業がよく分かる」生徒の割合は、5.5%~9.8%と低い値であり、1年生と2年生の、ほぼ25%の生徒が授業が分からないと回答している。この生徒たちが「授業が分かる」ようになることを目標とした授業改善が望まれる。

また、家庭学習時間が「ゼロ時間」と回答する生徒の割合が、1年生は約18%、2年生で約24%にのぼり、授業で学習したことを定着させるための時間が明らかに不足していることから、その確保に向けた取組が必要である。そして、そのための前提として、生徒の学習に対する意欲、関心を高めることが必要であり、そのために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要である。

### 2 研究課題（平成28年度の重点課題）

基礎学力の定着を目的とした、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善及び教材の開発に関する調査・研究を実施する。さらには総合的な学習の時間等を充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業とキャリア教育の連動の可能性を探る。

### 3 研究の内容

#### (1) 実施体制（学力向上推進協議会の位置付けを含む）

県教育委員会及び県立教育センターが連携して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について、推進校を指導した。推進校においては「個人→グループ→全体発表→個人」の学習サイクル構築を目指した授業改善と公開授業をとおして、推進校の域内にある中学校と連携して研究を進めた。また公開授業を含む学力向上推進協議会を近隣の高等学校及び中学校と複数回実施し、域内における取組の共有を図った。

#### (2) 推進校への具体的な支援・指導

研究課題に対して、指導主事が学校を訪問し、推進校の現状を把握し、事業の実施に係る指導、助言を行った。

- ・「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業展開、教材開発について、県立教育センターの指導主事と連携して、国・数・英の指導場面に即した実践的な指導、助言を行った。
- ・研究指定校が位置する下越地区の中学校及び高等学校の教員を集め、公開授業と学力向上推進協議会を開催した。学力定着に向けた地域共通の課題に触れつつ、推進校における授業

改善の取組の様子や、課題解決に向けた中高連携の在り方などについて指導、助言を行った。

#### 4 研究の成果、作成した成果物

- (1) 学力向上推進協議会（12月）において、基礎学力の定着を目指す授業改善の取組について、自校に効果的な事例を報告するように指導することで授業改善がさらに進んだ。
- (2) 研究授業の学習指導案を、県立教育センターの指導主事と連携して事前に指導することで、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善がより実践的なものとなった。
- (3) 進路意識の醸成に向けては、今年度の実践をもとに「主体的・対話的で深い学び」とキャリア教育の連動について、地域人材の活用など、翌年度の実施に向けた指針を指導することが、来年度の研究計画につながることもあった。

#### 5 課題とその分析

##### (1) 生徒の変化

アンケートによる評価を行ったところ、授業改善によって、グループ学習や課題解決に積極的に取り組む生徒が増えたことが分かった。その一方で、コミュニケーション能力の育成や自ら課題を発見する点については不足を感じている生徒も一定数おり、今後の課題が分かった。

##### (2) 各種取組の状況と評価

###### ① 「主体的・対話的で深い学び」を充実させる教材開発と地域人材の活用について

国語・数学・英語においては、地域の小・中学校と連携をしながら各教科で発問・教材の開発が行われているが、今後は、義務教育段階で身につけるべき基礎的な事項を定着させた上での授業改善の推進及び汎用性の高い発問・教材の開発を全校へと広げていくことが必要である。

「学習意欲の向上」については、生徒アンケートの結果によると、与えられた指示・課題についてはしっかり取り組もうとする生徒が増えているものの、主体的に取り組んだり、意欲と行動が一致していないと感じる生徒もまだいるので、グループ学習の工夫や学びの系統性、地域人材を活用したキャリア教育との関連づけを行い、さらなる改善が必要である。

###### ② 求められる資質・能力の育成と進路意識の向上について

協働的な学び合いを取り入れた授業改善やアンケートによる実態把握を行っている。リーダー性の育成やグループ間の健全な競い合いの場面を設けるとともに、基礎学力の確実な定着のための指標となる「中条スタンダード」を策定して実践するとともに定期的に評価・検証を行っている。

##### (3) 今後の重点事項

- ・基礎学力の定着・意欲向上、学習習慣の定着については、アンケート等で定量的に評価する。
- ・推進校の取組について、広報を行うことで地域内の連携を図るとともに生徒の自己有用感の向上や学校への理解を進め、更なる授業改善とキャリア教育の工夫を図る。
- ・公開授業や研修会を実施して、成果の普及を図るとともに、県教育委員会が指導助言を継続して行っていく。
- ・文部科学省の教科調査官からの指導を生かし、生徒の多様性に対応できる教員の資質能力の向上を図る。

#### 6 推進地域における研究成果等の今後の活用

- (1) 推進校において開催する学力向上推進協議会では、研究公開授業を実施し、成果や課題点を共有することで、地域全体における学力向上への取組と「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業に対する意識を今後とも高めていく。

- (2) 推進校の実践研究の内容を研究集録にまとめ、県内の高等学校及び中等教育学校に配付し、成果の普及を図る。
- (3) 各種研究協議会での発表や県の広報誌等の発行をとおして、研究成果を紹介し、基礎学力の定着に向けた取組について全県で共有する。
- (4) 県立教育センターの Web ページに研究の取組内容を掲載し、他校でも教材等を活用できるように情報提供・支援を行う。

## 7 その他

特記事項なし

(様式7)

平成28年度「課題解決に向けた主体的・協働的な確学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(高等学校)」

委託業務報告書【推進校(学校)】

都道府県名	新潟県	学校名	県立中条高等学校
-------	-----	-----	----------

### 1 推進校における学力に関する現状、生徒の実態

当校の生徒の入学時の一般選抜学力検査の総合得点は、全県の平均点よりも低く、義務教育段階での学習内容が十分に定着していない生徒が多い。また、学習時間調査では家庭で学習をしない生徒の割合が、平成25年度約56%、平成26年度約40%、平成27年度約37%と、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多い。

### 2 研究課題(平成28年度の重点課題)

当校の生徒の学力の現状を踏まえ、1学年において国語、数学、英語の3教科で習熟度別(2クラス3展開)の少人数授業を行いながら、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業を実践し、基礎学力の定着に向けて取り組むこととする。具体的には国語・数学・英語の授業において、「共同の学び」を実現する教師の授業力を高める。また学習者は主体的・協働的な学習から体験的理解、聴きあう関係や学び合い(互恵的關係「個人→グループ→全体発表→個人」)を促す。これらの活動をとおして、義務教育段階までの基礎的学習の「学び直し」、及び基礎的な学習から応用力を身につけさせ、国語、数学、英語で生徒の進路実現につながる学力の定着を図ることとする。

本研究では、教科による基礎学力の定着に関する検証と「主体的・対話的で深い学び」を充実させる教材の開発に係る調査研究を行った。

### 3 研究の具体的内容

#### (1)実施体制

- ・推進委員会を教頭と6名の教諭で構成し、全校体制で事業に取り組んだ。
- ・年2回の公開授業を実施し、地域の高等学校や中学校との連携を図り、県外の先進校を視察し、本校で実施する際の参考とした。

#### (2)推進地域(教育委員会等)との連携

- ・国語、数学、英語の指導案作成の助言と年2回の公開授業において指導を受けた。

#### (3)学力向上に向けた具体的な取組

##### ①「主体的・対話的で深い学び」を充実させる教材の開発と、地域の人材の活用について

地元の小学校や中学校と連携・協力を強化しながら、国語、数学、英語について「主体的・対話的で深い学び」を充実させる教材の開発を行うことで授業改善を図った。

また、こうした教育活動を通して地域との連携を深め、学校の活性化を図り、「特色ある学校づくり」を推進することが目標であるが、進路意識を十分に持てない生徒も少なくないことから、地域の人材を活用した講演会等を実施し、進路意識の醸成を図った。

##### ②アクティブ・ラーニングの視点からの授業展開について

生徒が「個人→グループ→全体発表→個人」のサイクルを構築するために、各教科での課題解決に向けて解決策の立案、行動をグループの力を生かしながら実行する。その過程で「リフレクション(振り

返り)」を重視する。個人の中でも、グループの中でも、リフレクション→気づき→行動→リフレクションを繰り返しながら課題解決に向かう姿勢を強化する授業展開をする。

### ③進路意識の向上と生徒たちに身につけさせたい力について

21世紀型の学力を身につけさせるために、①基礎力（言語活用力、説明する力、知識情報活用力、数的処理力）の向上を図る。②思考力（多様な価値を理解する力、課題発見力、計画力、議論する力）を伸ばす。③実践力（コミュニケーション力、チームワーク、リーダーシップ、人間関係構築力）を身につけさせる。④豊かな人間性（健康・体力、豊かな人間性、自己理解、自己管理力）を育む。これらを学校の中で、協働的な学び合いを取り入れた授業改善、総合的な学習の時間の充実、きめ細やかな生徒指導、進路指導を実践しながら研究する。

### ④先進校視察

<石川県立能登高等学校（平成28年11月17日）>

「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業及びユニバーサルデザイン化を目指した授業を推進して、授業改善を図っていた。教員の意識改革、学習カルテの使用状況、評価に関する共通理解について学んだ。

<富山県立小杉高等学校（平成28年11月18日）>

平成25年度から3年間、本事業の実践校である。課題解決型の授業や授業力向上のための教員の意識改革、評価に関する共通理解を図っていることを学んだ。

<学校法人 高岡向陵高等学校（平成28年11月18日）>

「総合コース」で取り組んでいる地域との交流学习と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を学んだ。

<東京都立久留米西高等学校（平成28年12月16日）>

少人数習熟度別授業と多様な進路希望を有する生徒を育てるための学校運営について協議した。

### ⑤研究授業

<第1回研究授業（平成28年12月13日）>

指導者

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事 小林 靖明

新潟県立教育センター指導主事 山本 寛

授業参観①2限 1年3・4組、教科：英語表現Ⅰ

授業参観②3限 1年1・2組、教科：数学A

授業参観③5限 1年1・2組、教科：国語総合

協議会 6限 授業講評

### ○指導助言

- ・基礎的な事項の定着を主眼においた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要である。
- ・グループ学習については頻りにグループを変えるのではなく、一定期間固定したグループのなかでの自分の役割を意識させることも大切である。
- ・必ずしも毎回グループ活動ではなく、一人で考えたい生徒もいる。バランスが大切である。
- ・指示を通りやすくするために視覚化を意識した教材の活用を促進する。

<第2回研究授業（平成29年1月23日）>

指導者

初等中等教育局教育課程課教科調査官 大滝 一登

初等中等教育局教育課程課教科調査官 向後 秀明

初等中等教育局教育課程課教育課程第三係専門職 加藤 友治

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事 小林 靖明

新潟県立教育センター指導主事 山本 寛

協議会Ⅰ 学校の取組（研究推進等）、教育委員会の取組（支援、普及等）の説明

授業参観① 3限 1年1・2組 数学Ⅰ、1年3・4組 英語表現Ⅰ

授業参観② 4限 1年3・4組 国語総合  
協議会Ⅱ 学校の取組（授業実践）の説明

○指導助言

- ・多様な生徒の学力向上を図るために、生徒たちの学びに対して意欲的でない理由やその原因は何かを教科単位ではなく、学校全体として考察して欲しい。
- ・学ぶことの必要性を実感する授業や、自分の人生にとって大事だったと思えるような授業が必要である。
- ・生徒は教員の力量を見抜く力を持っている。教師と生徒、生徒と生徒が信頼関係を築き、互いに尊敬し合う雰囲気醸成する。信頼関係がないと「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業は成立しない。
- ・教員が生徒の立場で考え、指導する必要がある。
- ・生徒のせいにすることなく、教員自身が自分の授業のどこが悪かったのかを反省し、授業改善を行わなくてはならない。

(4) 検証の手立て

- (1) 校内アンケート調査結果（1年生）（平成28年12月実施）  
学習面の悩み等を学級担任が把握し、改善する。
- (2) ベネッセ基礎学力調査結果（1年生）（平成28年度4月・1月）  
学習意欲と学習成績について分析し、改善を図る。

4 研究の成果、生徒の変容

○グループ学習を軸に授業展開した成果

- ・授業を聞くだけの受け身の姿勢から、グループ内で積極的に他者に関わろうとする生徒が増加した。
- ・課題にグループで主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・授業改善、評価方法への教員の意識が高まった。校内委員会で、教科や学年主任と話す機会が設けられた。

5 課題とその分析

基礎学力の定着を目的とした、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の状況を分析するために、以下のアンケート調査を実施した。

(1) 校内アンケート調査結果（1年生）（平成28年度12月実施）

1. 自分の学習活動を振り返って

科目名 質問項目 / 評価	国語総合				数学Ⅰ・数学A				コミュニケーション英語Ⅰ			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
①集中して授業に取り組んでいる	36%	48%	15%	1%	53%	40%	7%	0%	44%	49%	6%	1%
②授業準備をしっかりと行っている	65%	29%	6%	1%	66%	30%	5%	0%	67%	28%	4%	1%
③自分の意見や考えを仲間に伝えている	28%	43%	27%	3%	42%	40%	18%	0%	26%	52%	17%	5%
④仲間の発言をきちんと聴き、考えを深めている。	33%	51%	16%	1%	52%	35%	13%	0%	42%	44%	12%	2%
⑤分からないところは、友達や先生に質問するなどして、解決しようとしている。	39%	48%	11%	2%	56%	35%	8%	1%	35%	46%	16%	3%
⑥その教科の力がついてきていると思う	27%	52%	20%	1%	36%	48%	15%	1%	26%	48%	22%	4%

4・・・とても当てはまる    3・・・少し当てはまる    2・・・あまり当てはまらない    1・・・全く当てはまらない

- ・「集中して授業に取り組んでいる」という質問に対し、「とても当てはまる」とした生徒は、国語で36%、数学で53%、英語で44%となった。
- ・「仲間の発言をきちんと聴き、考えを深めている」の質問に対し、「とても当てはまる」とした生徒は

国語で 33%、数学で 52%、英語で 42%であった。生徒同士のコミュニケーションは改善が必要である。

- ・「その教科の力がついてきていると思う」の質問に対し、「とても当てはまる」とした生徒は、全体でほぼ 30%であった。活動が本来の学び、教科の理解から生徒の生きる力に結びつける改善が必要である。

## 2. 先生の授業について

科目名 質問項目 / 評価	国語総合				数学 I・数学A				コミュニケーション英語 I				英語表現 I			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
①授業のめあてや目標がきちんとわかる	39%	44%	14%	3%	54%	36%	10%	0%	46%	48%	7%	1%	48%	41%	9%	2%
②授業中に、考えたり活動したりする時間がある	50%	41%	7%	2%	69%	28%	3%	1%	56%	40%	3%	1%	64%	30%	6%	1%
③指示・説明がわかりやすい	40%	50%	9%	1%	55%	34%	10%	1%	49%	43%	7%	1%	55%	35%	9%	1%
④板書や資料提示がわかりやすい	41%	48%	10%	1%	56%	36%	7%	1%	55%	39%	5%	1%	58%	34%	5%	2%
⑤授業のスピードは適切である	48%	40%	10%	3%	54%	37%	9%	0%	50%	45%	5%	0%	55%	34%	9%	1%
⑥生徒の反応を見ながら授業を進めてくれる	46%	37%	14%	2%	58%	35%	6%	1%	54%	42%	3%	1%	55%	41%	4%	1%

4・・・とても当てはまる    3・・・少し当てはまる    2・・・あまり当てはまらない    1・・・全く当てはまらない

- ・「授業中に、考えたり活動したりする時間がある」の質問に対して、各教科・科目で 9 割を超える生徒があてはまると答えている。日々の活動で「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業が実践されている。
- ・「授業のめあてや目標がきちんとわかる」の質問に対して、各教科・科目で 8 割以上の生徒があてはまると答えている。授業改善の取組が浸透しつつあると考えられる。

## 6 今後の取組

### (1) 今年度の研究を踏まえた課題

授業展開、授業改善を実践し、講義中心の授業から「主体的・対話的で深い学び」を充実させた授業を行って生徒の基礎学力の定着を図り、各教科での学習の効果を上げることを目的としたが、各教科の研究が主で、学校全体での連携がまだ不十分であり、次年度は学校全体で授業改善に取り組む体制をつくる。

### (2) 各教科での授業改善の取組

- ・各教科でアンケートを実施し、実態把握を行い、生徒がグループ活動の中で主体的に取り組むことができる授業展開を研究する。
- ・他校の実践を参考に、定期的に校内研修会を実施し、情報を共有する。
- ・教科アンケートの結果を学校全体で検討し、取組の成果を明確にする。
- ・各教科と学年、学校全体のキャリア教育の関係性を重視し、自己有用感を向上させる授業を行う。
- ・リーダーの育成やグループ相互の健全な競い合いを促しながらグループ学習の実践を改善する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業で使用する、汎用性の高い教材を開発する。
- ・1年の国語、数学、英語について基礎学力の確実な定着のための指標となる「中条高校スタンダード」を策定する。

### (3) 地域の中学校との連携

中学校や他の高等学校との連携をさらに深める。

## 7 その他

特記事項なし